

与野南小だより

11月号 令和5年11月1日発行 第7号



さいたま市立与野南小学校 【児童数】計334名
電話 831-0157



学校ホームページ

縦割り活動で思いやりの心と自主性を育む

校長 土屋 智樹

日に日に秋が深まり、いちょうの金色が空に映える頃となりました。早いもので、今年も残すところ2か月となりました。

本校では、豊かな仲間意識を育む縦割り活動の推進を図るため、異なる学年や学級の子どもたちが一緒に遊ぶ「なかよしグループハッピータイム」を実施しております。毎月1回昼休みに、1年生から6年生までのメンバーで構成されたなかよしグループごとに分かれて、校庭や教室で一緒に遊ぶという活動です。交流を効果的なものとするために、①子どもたちが楽しいと感じられる活動の設定②子どもたちの主体的な活動の2点を大切にしています。特に、子どもたちが主体的に取り組めるよう、十分な計画や準備が重要となります。そこで、業間休みや学級の時間を利用して、6年生児童が遊びの計画、準備を行います。子どもたちにとって貴重な業間休みですが、そこは、グループのみんなのために、低学年の子どもも楽しめるような遊びの内容を一生懸命考えていきます。そして、内容が決まったら、「お知らせカード」に活動内容を書き、本校舎の1階大廊下に掲示してグループのメンバーに知らせます。準備や計画だけでなく、当日の役割もたくさんあります。活動が始まる前に、6年生は1年生を、5年生は2年生を教室に迎えに行ったり、活動が終わったら教室に送り届けたりします。また、初めの言葉、終わりの言葉、ルール説明など会の進行も行います。こうして、十分な計画と準備を行うことで、活動がスムーズになりますが、時には「ルールが分からない子」「グループに入れない子」「うまくできず、固まってしまう子」などの問題も起きます。しかし、子どもたちは、自ら手本を見せて教えたり、優しく声をかけたり、一緒に活動したりして、そのような問題にも上手に対処していきます。このように、上級生は、リーダーシップ、責任感、主体性が身に付き、下級生は、上級生からいろいろと学ぶことができます。また、異なる年齢や性格の子どもたちと触れ合うことで、思いやりの心や協調性も育むこともできます。

昔、近隣の子ども同士や家庭の中での兄弟同士の関わり合いの中で、遊びを通して子どもたちは社会性を自然と身に付けることができました。私が小学生だった頃、放課後、校庭に集まって様々な年代の子たちと一緒に野球をしたりサッカーをしたりして、夕方まで遊んでいました。そこでは、上級生から、遊び方を教えてもらったり、ルールを守らなければ注意をされたり、いろいろなことを教わりました。しかし、近年、少子化や放課後の遊びの減少などにより、そのような場も機会も失われてきて、社会性を身に付けることが難しくなっています。私は、かつての近隣や家庭で行われてきた異年齢の交流による社会性の育成を、学校でも意図的・計画的に行っていくことが大切であると考えております。

今月は、ハッピータイムの他、なかよしグループによる全校スマイルランチ集会があります。子どもたちのよりよい成長のために、これからも縦割り活動を続けて、思いやりの心や自主性を育んでいきたいと考えております。今後とも、保護者・地域の皆様の子どもたちへの温かいエールをお願いいたします。

